

LED
照明器

建設業向け提案強化

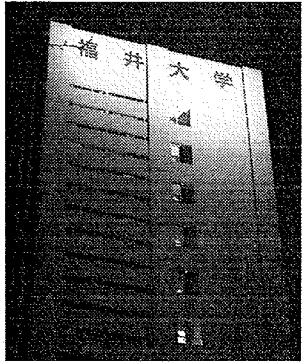
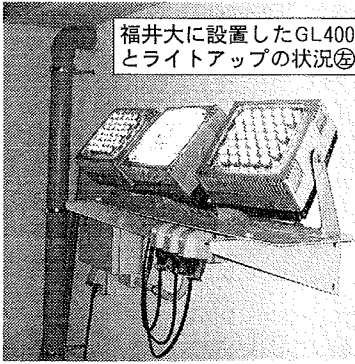
屋外や工場で水銀灯に代替

日野電子（福井県坂井市、岡田正一郎社長）では、軽量でコンパクトな屋外用LED照明器「Alight」（あらいと）の建設業向け提案活動を強化している。

LED照明器は、大手家電メーカーからも本格的な生産に乗り出したが、今のところまだ統一された規格

が存在しない。屋外や工場・体育館など大空間向けの製品は、大手メーカーのカタログでは水銀灯に換算した場合の「直下照度」が記載されているものの、光の広がりなどが従来の水銀灯とは異なるため、設置後に暗いとクレームが出る恐れもあるという。

福井大に設置したGL400とライトアップの状況



同社では、実際に現場にサンプルを取り付け、明るさや見え方、省エネ効果などを顧客自身に十分確認してもらった上で購入してもらう地道な営業を基本とする。本業が電子機器の基板製造であることから、エンドユーザーの要望や現場の条件に合わせた色合いや明るさの調整などカスタマイズもお手のものだ。

4年前にLED事業をスタート。たまたま取引先からデータ測定の仕事を引き受けた関係で、LED照明の将来性に着目した。海外から最先端のチップを多数取り寄せ、得意とする評価技術を駆使して最適な製品を選定した上で、自社ブランドの照明器を組み立てた。2年8カ月前、連続耐久性試験を開始したLED街

灯は、今なお自社駐車場でも光り続けている。
今後は天井高さ1.2mに対応できる製品も開発していく。

品揃えは

中国はトンネルにLED照明を使うなど、国家戦略として取り組み始めた。

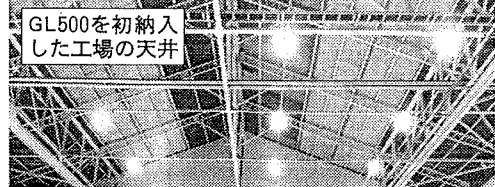
GL1000、GL4000に新製品のGL5000が加わった。水銀灯の照度分布と比較すると、それぞれ160W、250W、4000〜5000W程度に相当する。今年3月、GL5000が初めて、日本を代表する大手総合機械メーカー（東証1部上場）の工場（床面積約1400㎡、天井高さ7m）に採用され、計52個を納入した。この会社は、各メーカー製品の温度差や軽量・コンパクトさ、照度分布、コストなどを約半年間にわたって比較・検討した結果、日野電子の製品を選んだ。GL5000の照度は水銀灯の3倍に増え、電力消費量は25%削減される。コスト面では「初期投資は水銀灯の3〜5倍かかるが、寿命は約7倍に達し、電気代の低減でもモトは取れる」と強調。

日野電子

「規模の大小は問わず、電気工事の計画からプレゼン、設計・施工までできる建設会社と連携したい」と広く募集している。

売上高は初年度の5倍に拡大した。今年に入って福井大学の校舎（福井市）や北陸3大祭りの一つ「三国祭」（福井県坂井市）のライトアップに採用されるなど、地域に密着した実績も増えている。

現場ごとのカスタマイズが強み



GL5000を初納入した工場の天井